

1. はじめに

1. 独立行政法人国立青少年教育振興機構としての側面 ～7Cs 理念～

国立中央青少年交流の家は、文部科学省所管の独立行政法人国立青少年教育振興機構（平成 18 年 4 月発足）が運営する青少年教育施設の一つです。

私たちの使命 — Mission

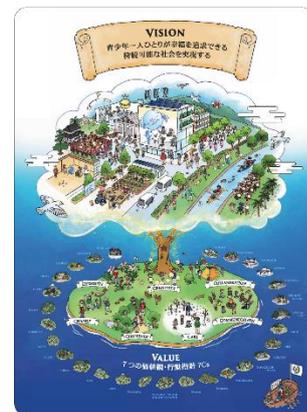
青少年教育の振興、健全な青少年の育成

私たちが目指すもの — Vision

青少年一人ひとりが幸福を追求できる持続可能な社会を実現する

私たちの価値観、行動指針 — Value

- | | |
|------------------|------------------------|
| 1. Curiosity | 私たちは、何事にも好奇心を持ち、 |
| 2. Change | 枠にとらわれずに変化し、 |
| 3. Challenge | 失敗を恐れずにチャレンジします。 |
| 4. Care | 私たちは、すべての人たちを思いやり、 |
| 5. Communication | 多様性を重んじ、対話と共感を大切にします。 |
| 6. Collaboration | 私たちは、多様な人々や組織と協働し、 |
| 7. Creativity | 青少年のさらなる体験の場を創造していきます。 |



☆詳しくはホームページをご覧ください。

独立行政法人国立青少年教育振興機構「機構について」 <https://www.niye.go.jp/about/>

2. 国立中央青少年交流の家のあらまし

設立の経緯 — 世界平和と日本文化の発展を願って—

「国立中央青少年交流の家」（当時は「国立中央青年の家」。以下、交流の家）は、皇太子殿下（現上皇陛下）御成婚記念事業の一つとして、1959年（昭和34年）に開設された我が国最初の国立青少年教育施設を前身としています。

3. 交流の家について

■ 教育目標（教育理念） — 「体験活動を通じた青少年の自立」

様々な体験活動の機会を提供し、青少年一人ひとりの成長・発達を促し、その自律と社会性の涵養を目指します。

■ 運営方針

国立青少年教育施設としての役割と、国立中央青年の家として創設された伝統を踏まえ、時代の要請に応じた新たな教育事業を創出して、その成果を広く発信します。

また、私たちは、交流の家を利用されるすべての団体が、「利用してよかった」と思える「満足」を提供することを目指します。

■ 行動指針

私たちは、一人ひとりが教育施設としての役割を自覚しつつ、

- (1) 相手の立場に立って「親切」に「誠意」を持って対応します。
- (2) 「安全」な施設・設備、教育環境を整えます。
- (3) 魅力的で「感動」のあるプログラムの提供を目指します。また、自己研鑽に努め、互いに学び合うことを通して、より質の高い教育活動の展開に努めます。

■ 所章



当施設を象徴する「富士山・家・若人」をイメージしてデザインされたものです。